

医療関連感染対策が病院運営に与える影響

～尿道留置カテーテル関連感染対策の費用対効果～

三ツ倉 裕子¹⁾ 高橋 陽子²⁾ 江熊 広海³⁾ 美原 盤⁴⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 医療関連感染対策室

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 循環器内科

4) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[目的] 医療関連感染対策は病院運営において重要な課題である。医療関連感染対策室では尿道留置カテーテル関連感染(CAUTI)に関する対策を実施した。今回、その効果について検討した。

[方法] 平成 29 年、CAUTI 対策としてカテーテル挿入時の清潔操作と適切な管理方法を徹底すると共に尿道留置カテーテルセットを変更した。対策実施前の平成 28 年と平成 29 年の急性期病棟に入院し尿道留置カテーテルを留置した患者を対象に、CAUTI 発生者数と発生率、および感染対策の費用対効果を調査した。

[結果] 対策実施により CAUTI 患者数は 18 名から 9 名、感染率は 1000 入院患者あたり 5.87 から 2.64 に減少した。セットの変更、個人防護具や手指衛生剤の使用量増加で材料費は年間約 10 万円の増額となった。一方 1 人あたりの CAUTI 治療にかかる費用は 127,290 円であり、患者数の減少により年間約 100 万円の削減となった。